Ⅲ―４　外国語

特定の課題に対する調査
教科等別結果の分析と考察

1 【系統性】の理解に基づく【連続性】を確保した調査企画の全体像

領域	指導事項（コミュニケーション活動例）	
ア聞くこと	(ｱ)	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
	(ｲ)	自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。
	(ｳ)	質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
	(ｴ)	話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
	(ｵ)	まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

イ話すこと	(ｱ)	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
	(ｲ)	自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
	(ｳ)	聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
	(ｴ)	つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
	(ｵ)	与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

ウ読むこと	(ｱ)	文字や符号を識別し、正しく読むこと。
	(ｲ)	書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
	(ｳ)	物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
	(ｴ)	伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
	(ｵ)	話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

エ書くこと	(ｱ)	文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
	(ｲ)	語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
	(ｳ)	聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
	(ｴ)	身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
	(ｵ)	自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

※S～C：設問レベル、【表】外国語表現の能力　【理】外国語理解の能力、
【知】言語や文化についての知識・理解、番号：設問番号

中学校		
第１学年	第２学年	第３学年
※調査対象としない	出題範囲：小学校第５・６学年、中学校第１学年	出題範囲：中学校第２学年

	・C【理】【知】1-2	・C【理】【知】1-2 ・C【理】【知】1-1-1 ・B【理】【知】1-1-2
	・C【理】1-1-1 ・B【理】1-1-2 ・S【表】【理】1-5-2　※領域複合エ(ｳ)	
	・C【理】1-3-1 ・B【理】1-3-2	
	・C【理】【知】1-4-1	・B【理】【知】1-3
	・A【理】1-5-3	・B【理】1-4-2

	・C【表】【知】2-1-1 ・B【表】【知】2-1-2	
	・B【表】【知】2-3-1 ・B【表】【知】2-3-2	・C【表】【知】2-1-1 ・C【表】【知】2-1-2 ・B【表】【知】2-1-3 ・B【表】2-2-1 ・B【表】2-2-2
	・C【表】【知】1-4-2	
		・A【理】4-5　※領域複合ウ(ｵ)

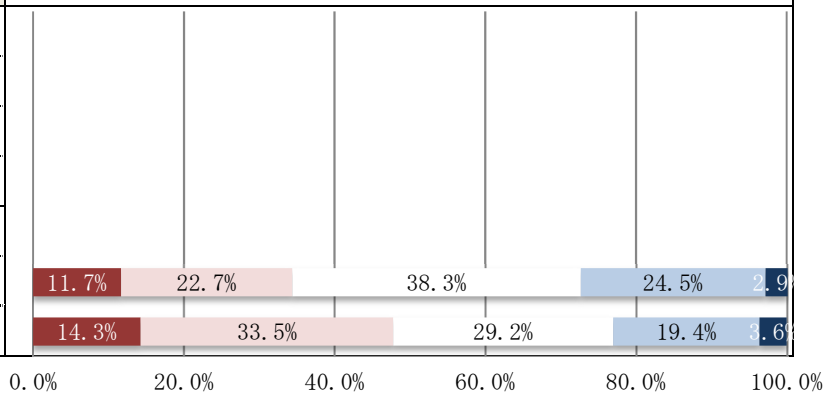
	・B【理】3-1 ・B【理】3-2 ・A【理】3-3 ・B【理】4-1 ・A【理】4-2 ・B【理】4-3	・B【理】4-1 ・C【理】4-2 ・B【理】4-3-1 ・B【理】4-3-2 ・B【理】4-4 ・C【理】5-1 ・B【理】5-2 ・A【理】5-3-1 ・A【理】5-3-2 ・A【理】5-4 ・S【表】【理】5-5　※領域複合エ(ｳ)
	・A【表】【理】5-1　※領域複合エ(ｴ)	・A【表】【理】3　※領域複合エ(ｴ)
		・A【理】4-5　※領域複合イ(ｵ)

	・B【表】【知】2-2-1 ・B【表】【知】2-2-2	
	・S【理】1-5-1 ・S【表】【理】1-5-2　※領域複合ア(ｲ)	・S【理】1-4-1 ・S【表】【理】5-5　※領域複合ウ(ｳ)
	・A【表】3-4 ・A【表】【理】5-1　※領域複合ウ(ｴ)	・A【表】【理】3　※領域複合ウ(ｴ)
	・S【表】5-2	・S【表】6

2　結果の分析と考察

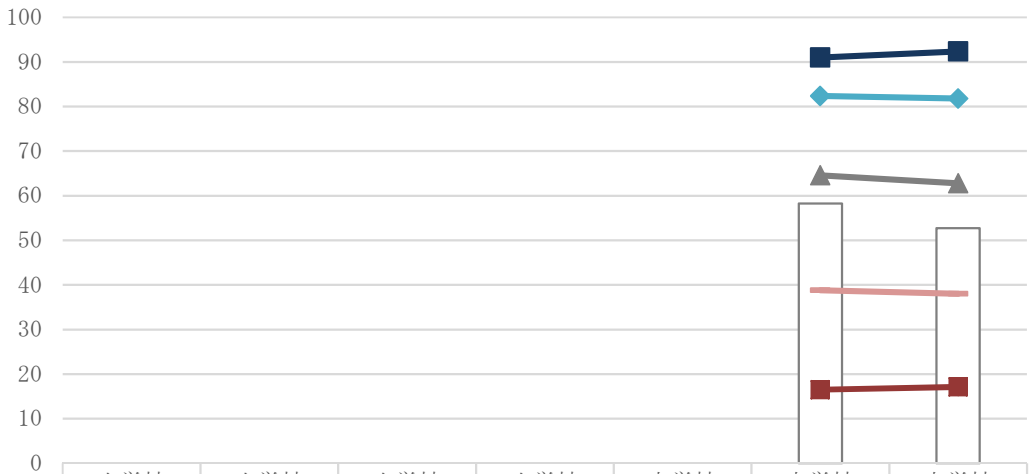
（1）５段階の学習状況の評定（学力段階）（再掲）

校種・学年		平均	全体に占める各学習状況の児童生徒の割合 R1	R2	R3	R4	R5
小学校	第３学年						
	第４学年						
	第５学年						
	第６学年						
中学校	第１学年						
	第２学年	2.84	11.7%	22.7%	38.3%	24.5%	2.9%
	第３学年	2.64	14.3%	33.5%	29.2%	19.4%	3.6%



※学習指導要領に準拠した調査実施の前学年の学習状況の評定（学力段階）
R5 発展的な力が身に付いている　　R4 十分定着がみられる
R3 おおむね定着がみられる（最低限の到達目標）
R2 特定の内容でつまずきがある　　R1 学び残しが多い

（2）学習状況の評定（学力段階）ごとの平均正答率（教科等全体）（再掲）



	小学校 第3学年	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
全体						58.3	52.7
R1						16.5	17.1
R2						38.8	38.0
R3						64.6	62.8
R4						82.4	81.8
R5						91.0	92.4

〔学力段階に関する考察〕

○「杉並区教育ビジョン 2012 推進計画」の目標Ⅰに準拠すると、中学校第 3 学年における R3 以上の割合はおよそ 50%であり、平成 33 年度の目標値 80%からは 30 ポイント低い状況である。この状況を生徒数に換算すると、平成 33 年度目標値に至るためには、杉並区全体では 600 人（学年を 2,000 人とした場合）、1 校あたりではおおむね 26 人を R3（以上）に引き上げることが必要である。

○学年の進行に伴い R2 が 10.8 ポイント増加しており、全段階での変化の度合いが最も大きい。

○R2 は、主として基礎 B の設問を（おおむね）通過できなかった場合の評定である。基礎 B は 4 領域の全て且つ外国語表現と理解の能力の両観点において出題しており、コミュニケーション活動における基礎的な知識や基本的な技能を出題内容とする。特に中学校第 1 学年を出題範囲とする第 2 学年の設問は、小学校外国語活動からの【系統性】【連続性】を踏まえ、全設問に占める「聞くこと」「話すこと」の割合が高い。小学校段階の十分な慣れ親しみ、体験的理解（気付き）にも課題があると考えられる。

◎（概括１）中学校第 2 学年(第 1 学年の内容）の時点では「R3 おおむね定着がみられる」生徒が、学年進行に伴い「R2　特定の内容でつまずきがある」状況になる傾向が顕著であると考えられる。その他の段階については、R1 はほぼ固定、R3 と 4 については学年の進行に伴い一つ下位に評定される生徒が発生すると考えられる。

◎（概括２）特に R1・2 は、小学校外国語活動からの【系統性】【連続性】を理解・確保するための校種を超えた【協働】を通じて、聞くこと・話すことの活動、音声から記号への接続を図る手だてによっても現状を改善していくことができると考えられる。

〔教科全体の学力段階ごとの平均正答率に関する考察〕

○段階ごとの正答率は、R2 から 4 では学年の進行に伴い微減、R1 と 5 では学年進行に伴い微増の傾向がみられる。

○全体の正答率と R3 のそれとの差は、両学年とも R3 が高く、学年進行に伴い大きくなる。この背景には、上述した学年進行に伴う R2 の増加が要因としてある。

○段階間の正答率の差は、両学年ともに、下位の段階に行くほど大きくなる傾向がある。

○なお、学年進行に伴い段階ごとの正答率に微減／増がみられるものの、同程度とみなしてもよい水準である。このことから、調査の難易度は両学年で十分統一されている。

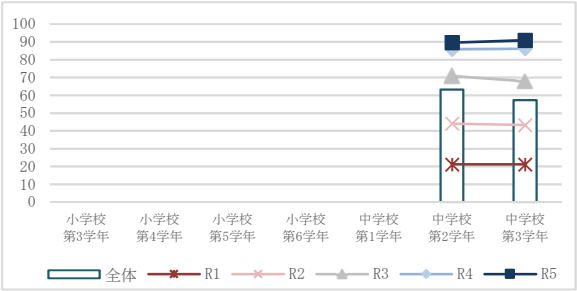
◎（概括１）R2 の生徒については、基礎的・基本的な事項の確実な習得、すなわち基礎 B・C の設問を全て(準)通過した場合の正答率である約 65%を目指した指導が必要である。現状は、第 3 学年を例にとると 27 ポイント程度である。設問数に換算すると約 6 問程度となるため、各領域において基礎 B として出題した 1.5 問（＝6 問÷4 領域）分の指導事項について、つまずきを解消していく必要がある。

◎（概括２）R1 が 2 と評定されるためには、おおむね 30%の正答率（基礎 C が全体に占める割合、p.11）が必要である。現状はマイナス 10 ポイント程度であり、まずは 2.5 問分の指導事項について学び残しを解消すればよいと見積もることができる。

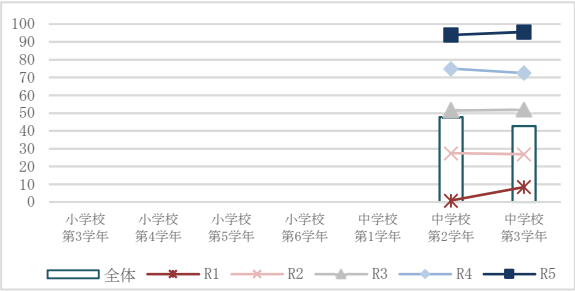
（3）基礎・活用別、観点別、領域別の学力段階ごとの平均正答率

①基礎・活用別

ア　基礎

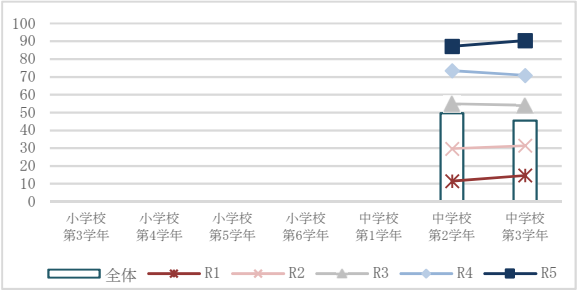


イ　活用

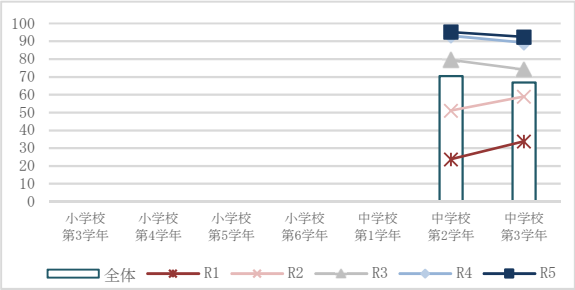


②観点別

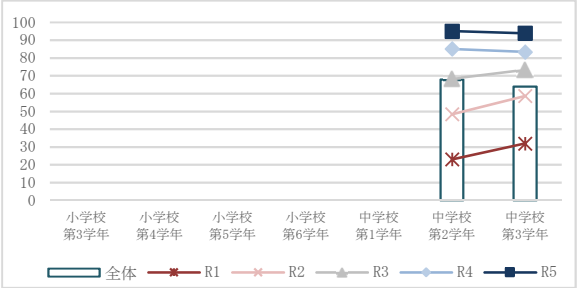
ア　外国語表現の能力



イ　外国語理解の能力

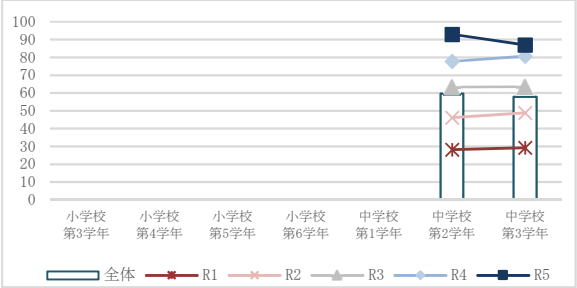


ウ　言語や文化についての知識・理解

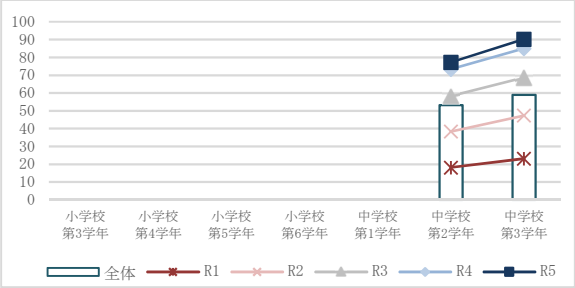


③領域別

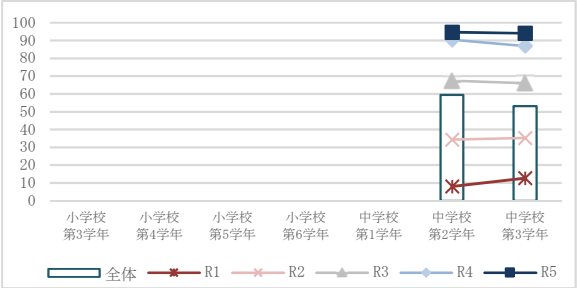
ア　聞くこと



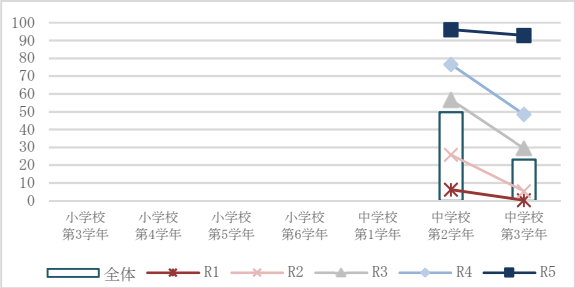
イ　話すこと



ウ　読むこと



エ　書くこと



〔基礎・活用別、観点別の考察〕

○学年進行に伴う正答率の変化は、「基礎」「活用」ともに低下傾向がある。

○段階別にみると、学年進行に伴い、「基礎」は R2・3 が下降、「活用」は R2・4 が下降の傾向がある。

〔観点別の考察〕

○「言語や文化についての知識・理解」は、R1 から 3 に学年進行に伴う上昇がある。

○「外国語表現の能力」は、R1・2・5 に学年進行に伴う上昇傾向、それ以外は下降傾向がある。

○「外国語理解の能力」は、学年進行に伴い R1・2 は上昇、R3 から 5 は低下している。

〔領域別の考察〕

○「聞くこと」は、R5 を除き学年進行に伴う上昇傾向がみられる。

○「話すこと」は、学年進行に伴い全段階で正答率の上昇傾向がみられる。しかし、後述（4）イ①「会話の継続」に関する設問によれば、R1・2 で通過率の低下がみられている。二度三度と双方向にコミュニケートできる表現の能力の育成に課題を残す。

○「読むこと」は、学年進行に伴い R1・2 で正答率の上昇傾向がみられる。ただしこの傾向は、「読むこと」の設問が全体に占める割合が、第 2 学年の 28%（7 問）と比較し、第 3 学年で 52%（13 問）に上昇することの影響もあると推察される。

○「書くこと」は、R5 を除き、学年進行に伴う正答率の低下が他領域と比較し顕著である。後述（4）エを参照すると、複数技能を統合するメモ（①）では R5 を除く全ての段階、つながりのある文章（②）では全ての段階で通過率の低下が著しい。

◎（概括１）上記は、正答率を主たる材料にした考察であり、また同個体の経年変化に基づくものではないことを主たる理由とし、正答率の微細な変化や差をもって、学年進行に伴う傾向や観点・領域間を比較した傾向を同定することは避けるべきである。以下は、これらのことを前提としてもなお、解決する必要のある課題である。

◎（概括２）「外国語理解の能力」「言語についての知識・理解」は、R1・2 に学年進行に伴う状況の改善がみられる。しかし、「外国語表現の能力」については、R5 を除く全ての段階でつまずきや学び残しがそのままになっている可能性がある。

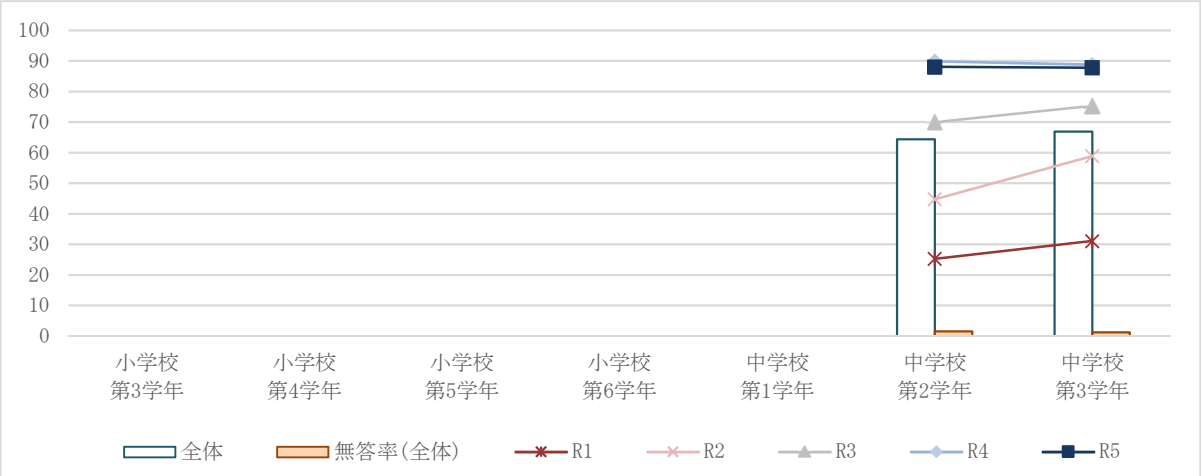
◎（概括３）「話すこと」における会話の継続に関する指導は、特に R1 の最初の学び残しを解消することにつながる。ただし会話の継続は、R4 以下で学年進行に伴う低下傾向がある。よって、小学校から中学校への円滑・意図的な接続を図り、日常生活に即した具体的なコミュニケーション場面で 4 技能を統合的に活用させる必要がある。なお、基礎・基本の（場面設定のない）反復はその必要性を認めつつも、習得や定着が十分でないという理由のみでの適応は避けるべきである。R1 や 2 の生徒は、日常生活に即し設定された具体的な場面において、音声を用いるコミュニケーション活動の蓄積が十分ではないことも多い。この点をどう補完するかが課題である。

（4）領域別に抽出した設問の（準）通過率・無答率

ア　聞くこと

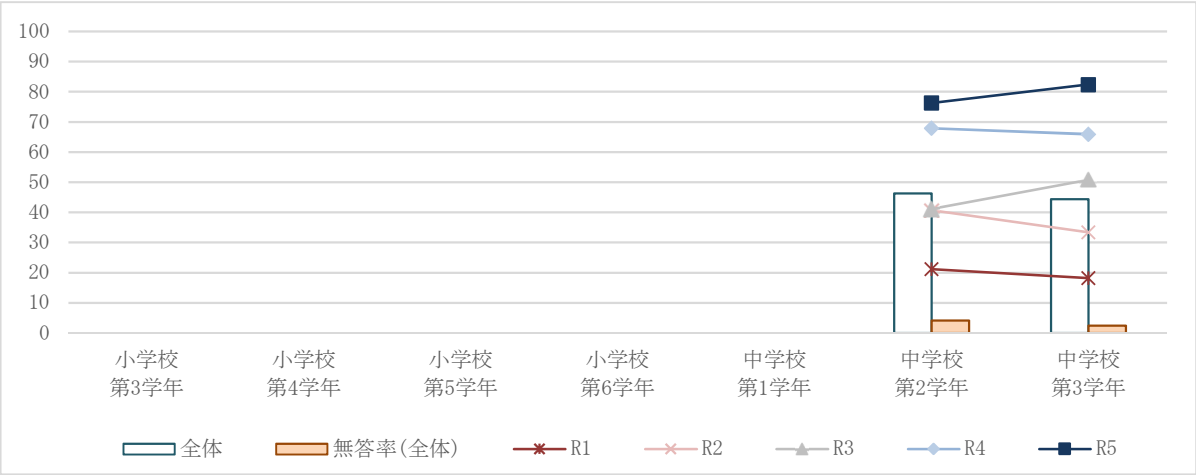
①「聞き返す・内容の確認」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨・内容【観点】
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	C	1-4-1	（ｴ）　聞き返す・話の内容を確認する。【知】【理】
	第３学年	B	1-3	



②「概要・要点の聞き取り」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨・内容【観点】
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	A	1-5-3	（ｵ）　スピーチの内容を聞き取る。【理】
	第３学年	B	1-4-2	スピーチの要点を聞き取る。【理】



〔「聞き返す・内容の確認」に関する設問の考察〕

第２学年と第３学年ともに、聞き返す・内容の確認を趣旨としており、設問レベルはそれぞれＣとＢである。

全体の通過率は両学年ともに 65％付近にある。段階別にみると、学年の進行に伴い R1 から 3 において通過率が上昇している。聞くことの中で「聞き返す・内容を確認する」ことは、現段階の小学校外国語活動においては表現として十分に慣れ親しまれてはいないものの、中学校においては必要不可欠の表現である。「聞き返す・内容を確認する」活動を繰り返すことで音声（Voice）と文字（Words）の関係の認識も進み、学年進行に伴って定着の度合いが上昇することにつながっていると考えられる。しかし、これら設問はいずれも基礎であるため、通過率 100％を目指す趣旨の設問である。このことからすれば、特に R1 や 2 の生徒に対する指導の改善が必要である。

聞くことは、コミュニケーション能力の基礎を養う根幹となる「音声イメージ形成」と「理解」の出発点である。基本的な英語の音声の特徴を捉えて正しく聞き取ることから、情報を正しく聞き取ること、適切に応じることへつながっていく過程で、日本語と英語の大きく異なる文構造の知識と理解も併せて押さえておく必要がある。つまり、両学年の R1 の通過率が 30％を下回り、且つ、R2 においても 60％を超えない背景には、文構造の理解不足が課題としてあると考えられる。ここでのつまずきを解消する方法として、まず日本語と英語の音声や文構造の違いを十分に理解することが挙げられる。そして、小学校で養われたコミュニケーション能力の素地を第１学年において最大限に生かし、課題の解決を目指していく必要がある。

〔「概要・要点の聞き取り」に関する設問の考察〕

第２学年では内容を、第３学年では要点を聞き取ることを趣旨とした設問であり、設問レベルはそれぞれ活用Ａと基礎Ｂである。同趣旨の設問であるにもかかわらず設問レベルが異なるのは、学年進行に伴う能力の伸長を期待してのものである。両学年ともに全体の通過率は 45％前後である。

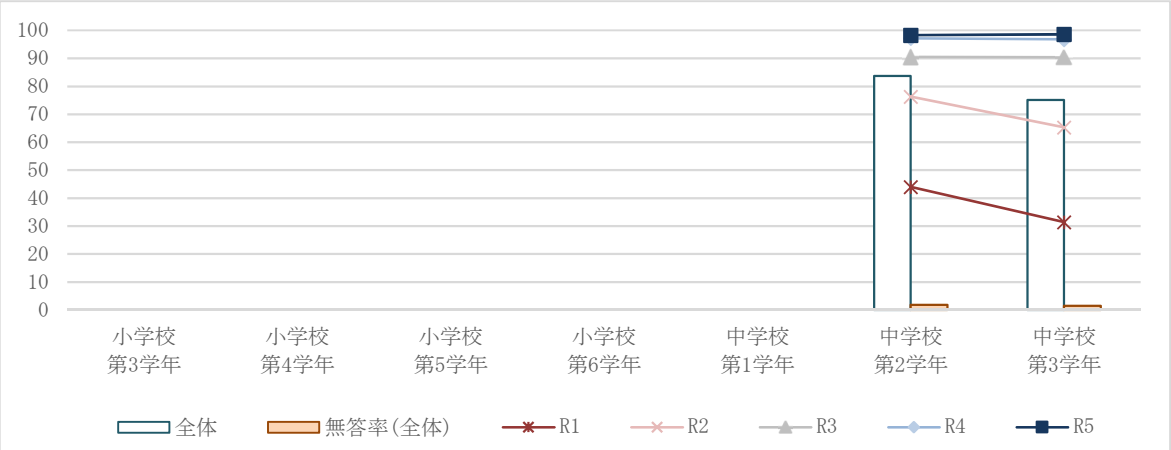
第２学年は、小笠原に住むケンが島の楽しい生活を紹介する文章を、第３学年はシドニーに住む佐知子が国際都市の一端を紹介するものを題材としている。両学年ともに、まとまりのある英語を聞いた後、その内容や概要について英文で放送される４文から適当なものを選ぶ解答形式を採用している。文はそれぞれ２回繰り返される。基礎Ｂである第３学年は、全段階間で 20 ポイント程度の差がある。活用Ａである第２学年においては、R5 と 4 とが、R3 と 2 とが接近しており、R4 と 3・2 では 25 ポイント強開きがある。R3 以下において特に課題を残す結果となった。

「聞くこと」の活動が「読むこと」「話すこと」「書くこと」と大きく異なり困難を極めるのは、自分のペースで進めることができないことにある。相手から与えられる情報に対応するためには一定のレディネスを必要とする。音声、文構造、基本的な定型表現、一定のメッセージや物語に慣れる等、領域総合的な指導が必要である。

イ　話すこと

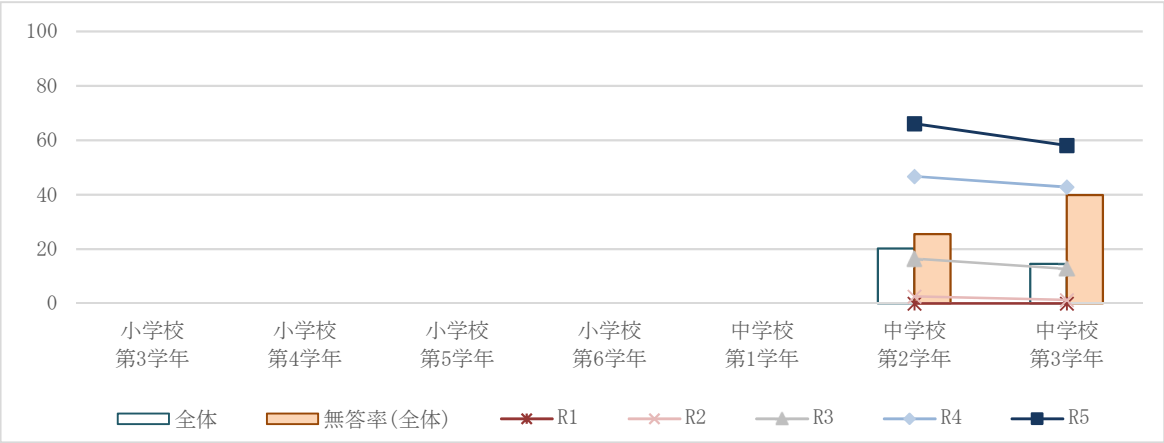
①「会話の継続」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	C	1-4-2	(ｲ)　つなぎ言葉を用いて話しを続ける。【理】【知】
	第３学年	C	2-1-3	(ｳ)　話題をつなぐ応答をする。【理】【知】



②「問答・意見を述べ合う」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨
小学校	第３学年			
	第４学年			
	第５学年			
	第６学年			
中学校	第１学年			
	第２学年	B	2-3-2	(ｳ)　話を聞き、特定の条件・状況下の質問に答える。【理】
	第３学年	B	2-2-2	(ｳ)　話を聞き、特定の条件・状況下の質問に答える。【理】



〔「会話の継続」に関する設問の考察〕

話すことは、本来紙面による測定は困難である。よって考察に当たっては指導事項・設問が限定的であることを前提する。そのうえでの出題趣旨は会話の継続である。

会話の継続は、相手とのコミュニケーションを確認したり発展させたりするための重要な手段である。第２学年は、小学校外国語活動でも使用頻度が高くシンプルな表現である Oh, really? をその他の機能をもつよく使われる表現の中から選ぶ設問、第３学年では、相手の話した内容に関心をもって相づちを打つことを選ぶ設問である。第２学年の通過率をみると、全体が 87.3%、R2 が 76.3%、R1 が 44.0%である。また、第３学年の通過率は全体が 75.1%、R2 が 65.3%、R1 が 31.4%である。系統的に結果を考察するなら、第３学年では学年進行に伴い R4 以下の生徒でつまずきや学び残しが発生し、そのことが全体の通過率を低下させているということになる。この背景には、第３学年の設問が、相手の話に関心をもって話の内容に合わせるという点がある。第２学年の設問で使う表現が小学校外国語活動で用いられるのに対し、第３学年のそれはいずれも中学校で新たに学習するものである。

中学校においては、まず「音声」を優先し、しだいに「文字」を通して確認する指導を心がけることが大切である。また、多様な会話場面を経験させたり、ALT との会話では即時的対応が経験できるよう工夫したりと、日常の実践的会話表現場面を確実に確保しながら経験を積み重ねることが重要である。さらに、段階を追った即時の会話表現の指導に留意したい。

〔「問答・意見を述べ合う」に関する設問の考察〕

自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることは、学習指導要領に示されるコミュニケーション活動例の規定上、問答したり意見を述べ合ったりすることなどのまとまったメッセージを伴う双方向のコミュニケーションの継続に発展する。

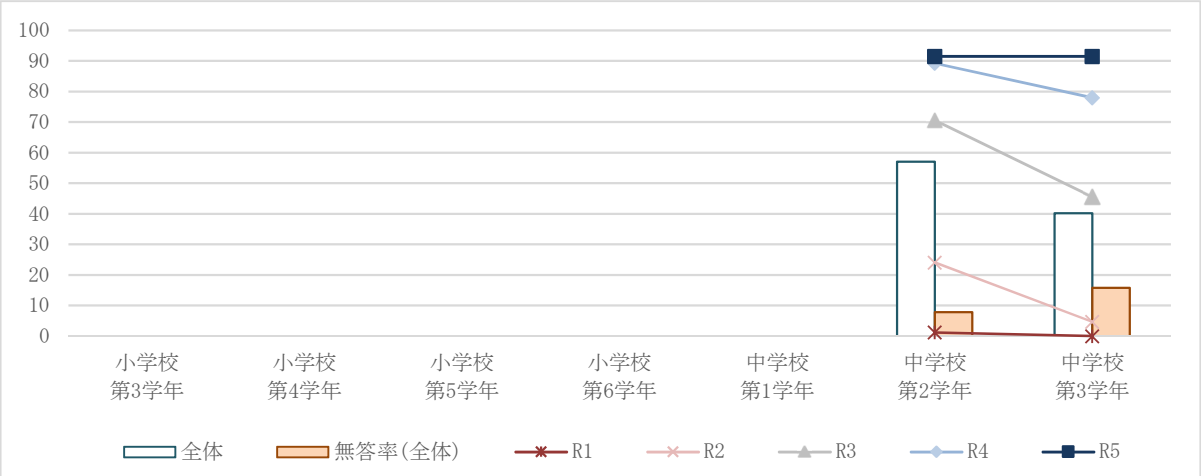
第２学年では「相手の名前が確認できない時の対応の仕方」を問い、第３学年では「初めて行く土地で訪れるべき適当な場所をたずねる言い方」という「特定の条件や状況下における対応」を問う設問である。両学年とも基礎Ｂにもかかわらず、全体の無答率は第２学年が 25.5%、第３学年が 39.8%である。通過率は、特に R1 と２は両学年とも一桁、R3 においても第２学年が 16.5%、第３学年が 20.7%である。

特定の条件や状況下での対応は、個人の気持ちや考えは多様であって答え（応え）は一つではない。また、文法中心ではなく、言語の使用場面や働きを重視することが必要である。小学校外国語活動においても、「友達を旅行にさそう」は Where do you want to go?、「丁寧な言い方で質問しよう」は What would you like? などを状況に合わせて日常的に用いている。身近なことを表現したい時、「不定詞だから」「仮定法だから」といった（文法上の）理由で使用を避けることは妥当ではない。「唯一の正解」という伝統的前提から脱し、それぞれの条件や状況に応じた妥当な表現方法は多様にあり、できるだけ自然な表現を使うということを習慣付ける必要がある。

ウ　読むこと

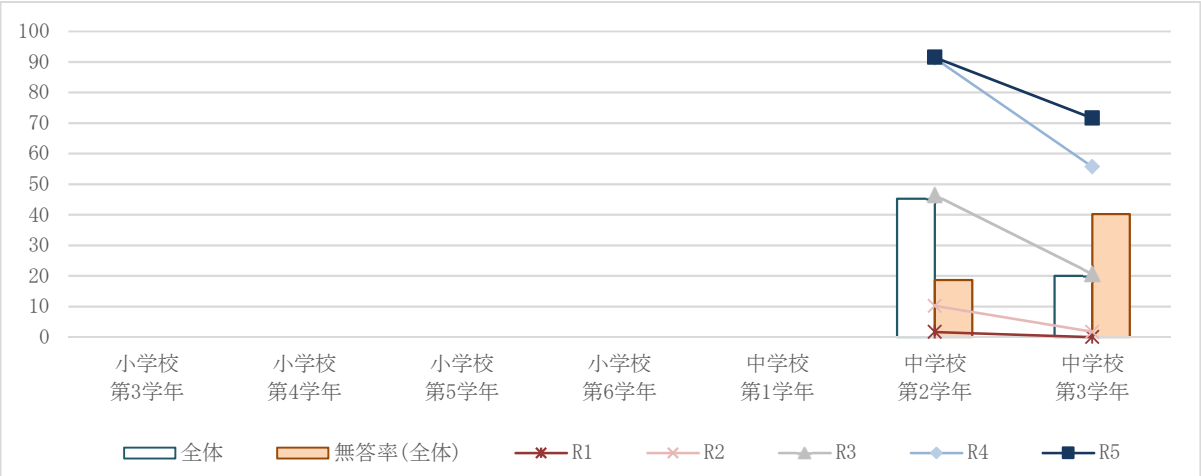
①「正確に読み取る」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨	
小学校	第３学年				
	第４学年				
	第５学年				
	第６学年				
中学校	第１学年				
	第２学年	B	3-1	(ｳ)	金額を正確に読み取る。【理】
	第３学年	B	4-1		映画のタイトルを正確に読み取る。【理】



②「意向を理解し応じる」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨	
小学校	第３学年				
	第４学年				
	第５学年				
	第６学年				
中学校	第１学年				
	第２学年	A	5-1	(ｴ)	メールに対する返事を書く。【理】【表】
	第３学年	A	3		文化の違いに対する助言を書く。【理】【表】



〔「正しく読む」に関する設問の考察〕

第 2・3 学年ともに、正確に読み取ることを目標とし、設問レベルは基礎 B である。

第 2 学年では、まとまった物語文を読み、会話の流れからカップケーキの値段を問うている。全体の通過率は 60％を下回り、R2 で 20％強、R1 では 1％強、無答率も R1 では 40％に達する。本文の読み取りとともに、会話の流れを理解し、値段を計算する必要性や計算そのものに思い至らなかったものと考えられる。また、特に R3 と 2 の段階間の差が大きい。

第 3 学年は、物語の展開に沿って変化する条件を追い、結論となる「映画のタイトル」を正確に読み取らせる設問である。本文とメモと見比べ、4 つの映画タイトルに関する内容の読み取りが困難であったと考えられる。特に R4 と 3 の差が大きい。

英文を読むとは、目的意識をもたず漫然と英語を追って読むのではなく、文字や符号を識別しながら、物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ることである。小学校外国語活動においても、絵本などで物語を聞いて、音声から意味を推測しながら、まとまりのある英文を聞き取る活動に慣れ親しんでおり、聞き取る力を身に付ける機会がある。まとまった物語を聞き続ける力を身に付ける活動は蓄積されており、音声と意味を結び付ける機会は多い。しかし中学校においては、さらに正確に読み取る指導が必要である。特に第 3 学年では、生徒にとって身近な教科書を活用した指導を基本に、読み物教材を活用した活動を組み合わせて行うことで、英語の基礎・基本はもちろんのこと、読む力も身に付いていく。

〔「内容を理解し正しく応じる」に関する設問の考察〕

内容理解の次の段階は、相手の意向を理解して適切に応じたり、意見や感想、理由を付けて賛否を示したりすることである。本系統の設問では前者を趣旨とし、いずれも活用 A のレベルである。

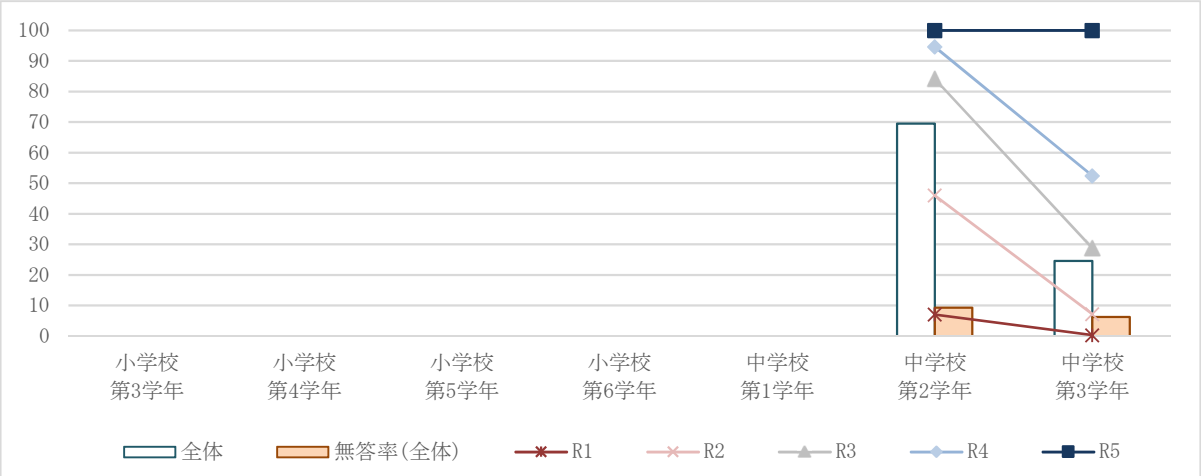
第 2 学年では、「メールに対する返事を書く」ことを求めている。全体の通過率は 45.3％である。第 3 学年では「ALT の相談にアドバイスをする」ことであり、全体の通過率は 20.0％であり、無答率は 40％を超える。一般に「意向を理解し適切に応ずる」ためには、意向を本文から抜き出せる場合と、直接書かれていないために自らの力で意向を読み取ったうでそれに応ずる場合とがある。教材文が長くなり内容が深化していくほど、内容を理解し正しく応じることが難しくなる生徒が増えている。

これらの解決策として、まず、語彙を増やすとともに、英語の文構造や論理の展開を理解させることが重要である。本文の細部を理解しながら読み進めるボトムアップ方式と、本文の概要をつかみ、新出語彙や指示語、表現の意味を類推させるトップダウン方式の双方向のアプローチが求められる。これらを基盤とし、文を要約して生徒同士で話し合うことで、読める自信をもたせたり、意向の応じ方について話し合ったりしながら「読み方」を学ぶとともに、様々なジャンルの英文の多読・多聴を継続的に行っていくことが望まれる。

エ　書くこと

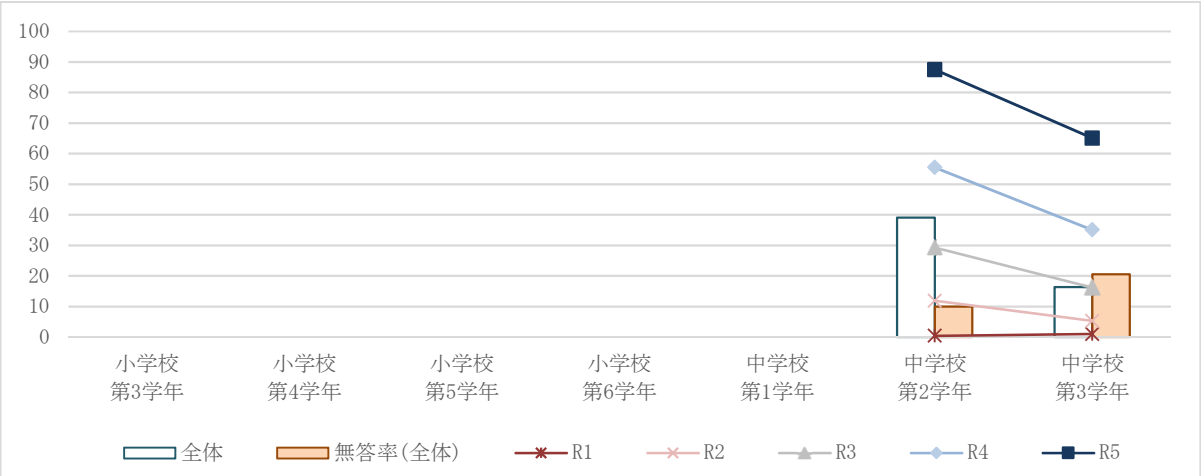
①「聞いたこと等をメモ」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨	
小学校	第３学年				
	第４学年				
	第５学年				
	第６学年				
中学校	第１学年				
	第２学年	S	1-5-1	(ｳ)	【理】聞いたことについて英語でメモする。
	第３学年	S	1-4-1		【理】スピーチの内容について英語でメモする。



②「つながりのある文章」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（%）

校種・学年		レベル	番号	出題趣旨	
小学校	第３学年				
	第４学年				
	第５学年				
	第６学年				
中学校	第１学年				
	第２学年	S	5-2	(ｵ)	他者紹介文を書く。【表】
	第３学年	S	6		日本の紹介文を書く。【表】



〔「聞いたこと等をメモ」に関する設問の考察〕

本設問の系統は、書くことの領域に規定されるものの、聞くこととの統合を目指す「聞いたことを英語でメモすること」を趣旨としている。設問レベルは両学年ともに活用Ｓである。具体的には、文字や符号の識別、語と語の区切りなどに注意して書くなど、日本語とは異なる文字文化を学ぶことを経て、聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりする段階を想定している。

第２学年は小笠原について、第３学年はシドニーについてのスピーチを聞き、英語で整理された表の空欄を補充する設問である。全体の通過率は、第 2 学年で 69.5%のところ、第３学年では 24.5%に低下する。通過率を段階別にみると、第２学年では R3 以上が接近し、且つ、R3 と 2 には 40 ポイント程度の差がある。第 3 学年では R5 が 100%であるものの、R5 と 4 には 50 ポイント近い差が生まれている。

このことの背景には、学力段階によらず、正確性（Accuracy）と流暢性（Fluency）を活動の目的によって明確に使い分ける経験の不足がある。すなわち、正確性（のみ）を（無自覚に）学習や指導の前提としている実態があると考えられる。

こうした課題の解決のためには、活動の目的によって、正確性と流暢性を明確に使い分ける指導が必要になる。聞きながら（英語で）とるメモは、後に自身で解答に必要な情報を想起できればよく、したがって正確性よりも流暢性を重視すればよい。さらに、聞くことの活動において、日本語を介さず英語のままに必要な情報を識別する経験を積み重ねれば、日本語を介し再度英語で書く過程のつまずきを改善できる。日常の帯活動などで、定期的にこのような活動を展開することが望ましい。

〔「正しく伝わるよう、つながりのある文章を書くこと」に関する設問の考察〕

本設問は、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことである。設問レベルはいずれも活用Ｓである。

第 2 学年の設問は、好きな友達、歌手、スポーツ選手などから 1 人選び、ALT に紹介する 3 文を英語で書く。第３学年では、初めて知り合った外国の友達に日本を紹介する 4 文を英語で書く設問である。本設問は上記設問とは異なり、書くことの領域が単独であるものの、全体の通過率が第 2 学年 38.0%、第 3 学年 17.0%であることから、大きな課題がみられる。音声に慣れ親しみ、次第にその音が文字化され、また文字が音に変換されるという言語の獲得過程を考えると、課題解決のためには、小学校の外国語活動における英語を聞いたり話したりして、英語に慣れ親しんでいる素地を生かし、中学校における書くことの学習との円滑な接続を図ることが有効な手だてとなる。小中連携校における更なる連携・協働の推進が求められる。

また、書くことは自己表現であり、様々な場面を設定したうえで、英語で相手に伝える喜びや楽しさを実感させる工夫をする。さらに、書くことの時間確保である。一単位時間内で応答や短いコメントを書くこと、定期的にまとまった考えや気持ちを書き、発表し、相互評価などをする統合的な活動を計画的に展開する必要がある。

3　各学年の結果と分析、考察と改善策

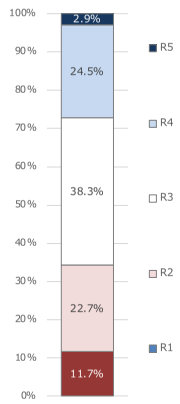
中学校第２学年

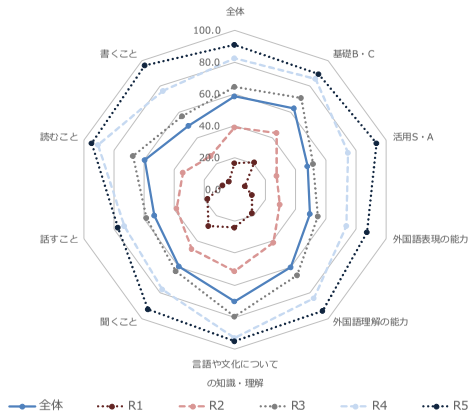
設問番号				出題						学習評価の観点					指導内容の領域					結果											
										1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	（準）通過率（%）						無答率（%）					
連番	大問	小問		学習指導要領に準拠した趣旨	内容	形式	解答形式	設問レベル		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと		全体	R1	R2	R3	R4	R5	全体	R1	R2	R3	R4	R5
1	1	1	1	ア(イ)情報を正確に聞き取ること	動作に関する情報を正確に聞き取る	選択	通常	基礎C				●			■					97.5	86.7	98.3	98.7	99.8	98.3	0.9	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0
2	1	1	2	ア(イ)情報を正確に聞き取ること	時間に関する情報を正確に聞き取る	選択	通常	基礎B				●			■					65.9	29.5	52.5	72.2	82.8	94.9	1.3	9.1	0.6	0.1	0.0	0.0
3	1	2		ア(ア)強勢、イントネーション等を正しく聞き取ること	対話の内容から正しい強勢を判断する	選択	通常	基礎C				●	●		■					62.8	22.8	44.6	68.4	86.9	91.5	2.7	12.9	3.2	0.9	0.4	0.0
4	1	3	1	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	所有者に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎C				●			■					63.3	16.2	36.5	71.5	93.7	98.3	3.2	14.1	4.1	1.5	0.2	0.0
5	1	3	2	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	手段に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎B				●			■					71.0	23.7	51.0	80.1	95.0	96.6	2.3	14.5	2.3	0.1	0.0	0.0
6	1	4	1	ア(エ)聞き返す・内容を確認すること	話の内容を聞き返す	選択	通常	基礎C				●	●		■					64.4	25.3	44.8	70.0	89.9	88.1	1.6	10.4	1.3	0.3	0.0	0.0
7	1	4	2	イ(エ)つなぎ言葉を用いるなど工夫して話を続けること	話を続けるためにつなぎ言葉を用いる	選択	通常	基礎C			●		●			■				83.7	44.0	76.3	90.5	97.2	98.3	1.8	12.9	1.1	0.1	0.0	0.0
8	1	5	1	エ(ウ)聞いたこと・読んだことについてメモをとること	聞いたことについてメモをとる	記述	複合条件	活用S				●						■		69.5	7.1	46.1	84.2	94.7	100.0	9.3	49.0	13.0	1.4	0.2	0.0
9	1	5	2	ア(イ)情報を正確に聞き取り、エ(イ)正しく文を書くこと	スピーチの内容を正確に聞き取り、質問に対する答えを書く	自由記述	通常	活用S			●	●			■			■		6.7	0.0	1.1	5.4	6.1	100.0	25.7	75.9	41.8	15.8	5.1	0.0
10	1	5	3	ア(オ)概要・要点を聞き取る	スピーチの内容を正確に聞き取る	選択	通常	活用A				●			■					46.3	21.2	40.7	41.1	67.9	76.3	4.1	24.5	4.5	0.6	0.0	0.0
11	2	1	1	イ(イ)考えや気持ち、事実などを正しく伝えること	誘いに対する自分の気持ちを伝える	選択	通常	基礎C			●		●			■				72.0	22.8	49.9	83.7	94.7	100.0	2.2	15.4	1.7	0.0	0.0	0.0
12	2	1	2	イ(イ)考えや気持ち、事実などを正しく伝えること	人物の評価に関する自分の考えを正しく伝える	選択	通常	基礎B			●		●			■				77.7	23.7	60.8	89.7	97.8	100.0	2.3	17.0	1.5	0.0	0.0	0.0
13	2	2	1	エ(イ)語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと	語と語のつながりに注意して正しく文を並び替える	記述	完答	基礎B			●		●					■		53.3	3.3	18.1	64.7	87.5	91.5	3.4	21.2	2.8	0.9	0.0	0.0
14	2	2	2	エ(イ)語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと	語と語のつながりに注意して正しく文を並び替える	記述	完答	基礎B			●		●					■		78.4	24.9	63.1	90.1	97.8	96.6	3.4	23.2	2.3	0.5	0.0	0.0
15	2	3	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B			●					■				12.8	0.4	2.3	10.9	30.5	22.0	20.4	71.4	30.3	11.6	2.8	1.7
16	2	3	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B			●					■				20.2	0.0	2.6	16.5	46.7	66.1	25.5	78.8	39.7	17.2	2.8	0.0
17	3	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	金額を正確に読み取る	記述	通常	基礎B				●					■			57.1	1.2	24.1	70.6	89.3	91.5	7.8	39.8	11.9	1.1	0.0	0.0
18	3	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	指示語が意味する内容を正確に読み取る	自由記述	複合条件	基礎B				●					■			40.2	0.0	4.7	45.6	78.0	91.5	15.8	59.8	24.9	8.0	0.6	0.0
19	3	3		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物が学んだことを捉える	記述	通常	活用A				●					■			56.6	4.1	33.5	62.0	90.1	94.9	18.5	74.3	33.3	5.7	0.2	0.0
20	3	4		エ(エ)自分の考えや気持ちなどを書くこと	話題に対する自分の考えを書く	自由記述	複合条件	活用A		●								■		57.1	4.1	32.4	63.4	91.3	93.2	13.1	63.5	20.3	2.8	0.0	0.0
21	4	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の行動に関する情報を正確に読み取る	自由記述	通常	基礎B				●					■			76.1	16.2	57.6	90.3	97.0	98.3	6.6	33.2	8.3	1.6	0.8	0.0
22	4	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の心情に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	活用A				●					■			62.8	13.3	46.3	67.2	91.1	94.9	4.1	24.9	4.1	0.6	0.0	0.0
23	4	3		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の心情に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	基礎B				●					■			77.7	19.5	63.5	90.5	95.8	100.0	4.6	25.3	5.8	0.8	0.0	0.0
24	5	1		ウ(エ)書き手の意向を理解し、エ(エ)考えや気持ちなどを書くこと	メールの内容を理解し、適切に返事を書く	自由記述	複合条件	活用A			●	●					■	■		45.3	1.7	10.2	46.5	91.3	91.5	18.7	66.0	32.8	8.6	0.6	1.7
25	5	2		エ(オ)正しく伝わるようにつながりのある文章を書くこと	紹介文を書く	自由記述	複合条件	活用S			●							■		38.0	2.1	9.6	42.4	67.3	100.0	10.5	47.7	14.9	3.5	0.8	0.0
26																															
27																															
28																															
29																															
30																															

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

教科等	外国語
校種・学年	中学校第2学年
出題範囲	中学校第1学年
対応教科書	開隆堂出版

■学習状況の評定（学力段階）、段階別の平均正答率（%）





設問				平均正答率（%）					
数	%			全体	R1	R2	R3	R4	R5
25	—		全体	58.3	16.5	38.8	64.6	82.4	91.0
17	68.0	基礎／活用別	基礎B・C	63.2	21.2	44.1	70.8	85.9	89.6
8	32.0		活用S・A	47.8	6.7	27.5	51.5	75.0	93.9
		観点別	1　コミュニケーションへの関心・意欲・態度						
11	44.0		2　外国語表現の能力	49.6	11.5	29.7	54.9	73.5	87.2
16	64.0		3　外国語理解の能力	60.2	18.0	41.0	66.5	84.3	94.2
7	28.0		4　言語や文化についての知識・理解	70.4	23.8	51.1	79.6	93.1	95.2
			5						
8	32.0	領域別	A　聞くこと	59.7	28.2	46.2	63.4	77.8	93.0
5	20.0		B　話すこと	53.3	18.2	38.4	58.3	73.4	77.3
7	28.0		C　読むこと	59.4	8.0	34.3	67.5	90.4	94.7
7	28.0		D　書くこと	49.8	6.2	25.8	56.7	76.6	96.1
			E						

レベル	活用	S	3	12.0
		A	5	20.0
	基礎	B	11	44.0
		C	6	24.0
形式	出題	選択	12	48.0
		記述	7	28.0
		自由記述	6	24.0
	解答	通常	16	64.0
		完答	2	8.0
		複合条件	7	28.0

学習状況の評定（学力段階）				
R1	R2	R3	R4	R5
11.7%	22.7%	38.3%	24.5%	2.9%

【読んだことについて問答する設問　大問２（3）②　基礎Ｂ　20.2%】

短い２人の対話文を読み、意味が通じるように質問に答える。
A: What's your name, please?　B: My name is Goromaru.
A:〔　　〕　B: G-O-R-O-M-A-R-U.
A: G-O-R-O-M-A-R-U, right?

■　分析

「読むこと」と「書くこと」の二つの領域を統合した設問である。全体の通過率は、20.2%であり、段階別では、R5＝66.1%、R4＝46.7%、R3＝16.5%、R2＝2.6%、R1＝0.0%である。設問レベルは基礎Ｂであるものの、R1・2が一桁台、R3で10%台、R5が60%台である。4技能の統合に関する設問とはいえ、課題が大きいといえる。

■　考察

この対話文は、初対面の相手に聞き取りにくい名前を聞き返すという基本的な会話である。相手の名前やその綴りを尋ねる活動は、ALT との外国語活動で行ったり、教科書の最初にも取り上げられたりしている活動であり、日常のコミュニケーションの中では挨拶に次いで基本的な活動である。通過率が低い理由としては、第一に、日常の授業の中で、文字や綴りを聞き返す活動が日本語で行われていて実際の使用体験が少なく、簡易な文であるだけに活動が「話す」「聞く」の別個の段階でとどまっていることが考えられる。第二に、答えが一つではなく、状況によっては、複数の対応が可能なため、解答に迷ったことも考えられる。第三は、状況が理解でき、言うことはできても、書くことのハードルが高いためとも考えられる。

■　授業改善

(1) 定型文の定着のためのパタンプラクティスや短い会話文の暗唱にとどまらず、それらの表現を基盤に、自分たちが真に表現したいことを聞いたり、話したり、書いたりする豊かな活動を日常化していくことで表現力の向上と定着を図る。スキットづくりや発表、評価活動からスタートできる。

(2) 授業では、進行に必要な定型表現はある程度限られているので、生徒も教師も英語を使うことを前提とする。例えば Here you are.は日常化している一方、How do you spell it?は半数程度しか使われていない。あいづちなども、限定されていてワンパターンになりがちである。それを前提として、既習の英語表現や応用表現だけでなく、今後学習する表現であっても必然性があれば計画的に取り入れることで、自分が言いたいことや伝えたいことについて、実感をもって英語を道具として使う学習環境を作り、活動を継続して積み重ねていく必要がある。

【あらすじ・大切な部分を正確に読み取る設問　大問３（2）　基礎Ｂ　40.2%】

ワールド・フード・フェスティバルについてのまとまった英文を読み、“that”が指す内容を日本語で簡潔に答える。

■　分析

「読むこと」の領域の設問である。全体の通過率は、40.2%である。段階別では、R5からそれぞれ、91.5%、78.0%、45.6%、4.7%となり、R1が0.0%である。R2とR3と間の通過率の差が40ポイント程度ある。また、無答率も段階を追うごとに高くなり、R1については59.8%と半数以上が無答である。基礎Ｂは、R1・2を含めた全ての生徒に対して確実に習得させる内容である以上、非常に課題が大きい。

■　考察

上記の結果の理由には、幾つかのことが考えられる。まず、入門期において指示代名詞 that は、独立用法から学び、次に形容詞的用法が来ることが多い。また、単に名詞を指す場合に限らず、語句や文を指す場合もあれば、本設問のように段落全体を指す場合もある。小学校外国語活動の場ではしばしば聞かれる使用法であるし、中学校においても、日常頻繁に使用されてはいるものの、意識化されていないことが多い。中学校での文法指導において初歩的な使用に限定してしまうと、文脈に応じた一つの単語の様々な使われ方、つまり、生きた言葉としての広がりがなくなってしまう。

■　授業改善

(1) まとまった英文の内容を理解するうえで、代名詞が何を指しているかを正しく理解することがいかに大切かを意識させるとともに、具体的に何を指すかを確認していく。また、適当な時期に代名詞 that の多様な例文をまとめて指導することで、言葉の微妙な違いや広がりを体感させていく。

(2) 辞書の使用を計画的に指導して自立学習につなげる中で、多くの例文に触れさせることで、日本語にない英語の微妙なニュアンスをも理解させる。

(3) まとまった文を読もうとする意欲・関心を高めるため、さらに、読む力を高めるために、教科書本文の読む活動が訳読式の単純な活動にならないよう工夫することが重要である。例えば、Pre-reading の活動として、そのテーマについて話し合わせ英文に関心を喚起する。また、Reading points を与えてから本文に入ることにより、手掛かりをもつことでより興味をもって読むことができるようになる。加えて、まとまった英文の語数を段階的に増やしていく等の工夫が必要である。これらと平行し、CAN-DO リストをもって各単元の読む活動の目標と評価を明確にすることにより、生徒たちの「達成したい」という意欲をより一層喚起できる。

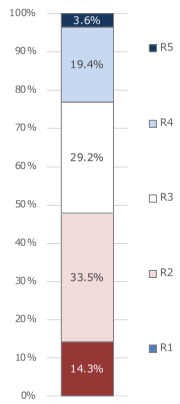
中学校第３学年

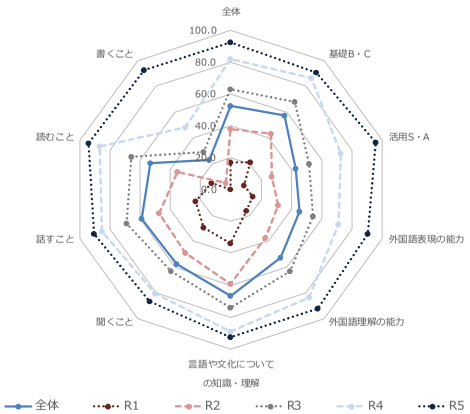
設問番号				出題						学習評価の観点					指導内容の領域					結果											
										1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	（準）通過率（%）						無答率（%）					
連番	大問	小問		学習指導要領に準拠した趣旨	内容	形式	解答形式	設問レベル		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと		全体	R1	R2	R3	R4	R5	全体	R1	R2	R3	R4	R5
1	1	1	1	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	対話文中の意向に関する質問に適切に応じる	選択	通常	基礎C				●	●		■					55.7	26.4	42.9	61.4	84.3	90.5	1.3	6.1	0.9	0.3	0.0	0.0
2	1	1	2	ア(ウ)質問・依頼などに適切に応じること	対話文中の誘いに適切に応じる	選択	通常	基礎B				●	●		■					87.8	53.7	87.8	95.9	99.0	98.6	0.7	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0
3	1	2		ア(ア)強勢・イントネーション等を正しく聞き取ること	対話の内容から強勢を正しく判断する	選択	通常	基礎C				●	●		■					34.9	16.9	21.6	33.6	65.7	75.7	1.4	7.8	1.0	0.0	0.0	0.0
4	1	3		ア(エ)聞き返す・内容を確認する	対話文中で聞き返し、内容を確認する	選択	通常	基礎B				●	●		■					66.9	31.1	58.9	76.3	88.8	87.8	1.2	6.1	0.7	0.2	0.0	0.0
5	1	4	1	エ(ウ)聞いたこと・読んだことについてメモをとること	スピーチの内容を聞き、メモをとる	記述	複合条件	活用S				●						■		24.6	0.3	7.2	28.8	52.5	100.0	6.3	32.8	4.2	0.5	0.2	0.0
6	1	4	2	ア(オ)概要や要点を適切に聞き取ること	スピーチの要点を適切に聞き取る	選択	通常	基礎B				●			■					44.4	18.2	33.4	50.8	65.9	82.4	2.4	10.5	2.4	0.2	0.0	0.0
7	2	1	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、気持ちを伝える	選択	通常	基礎C			●		●			■				87.4	48.6	88.6	96.4	98.0	100.0	0.9	6.1	0.1	0.0	0.0	0.0
8	2	1	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、話題をつなぐ応答をする	選択	通常	基礎C			●		●			■				60.5	28.7	48.0	65.2	92.0	95.9	1.1	6.8	0.3	0.0	0.0	0.0
9	2	1	3	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、話題をつなぐ質問をする	選択	通常	基礎B			●		●			■				75.1	31.4	65.3	90.4	96.8	98.6	1.5	8.8	0.7	0.0	0.0	0.0
10	2	2	1	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B			●					■				57.7	7.4	34.0	79.0	96.0	98.6	23.7	65.2	36.6	6.8	0.5	0.0
11	2	2	2	イ(ウ)聞いた・読んだことなどについて問答する・意見を述べ合うこと	話の内容を聞き（読み）、特定の条件・状況下における質問に答える	記述	複合条件	基礎B			●					■				14.5	0.0	1.3	12.7	42.8	58.1	39.8	83.8	57.8	23.3	7.5	5.4
12	3			ウ(エ)書き手の意向を理解し、エ(エ)考えや気持ちなどを書くこと	文化の違いに関する書き手の意向を理解し、アドバイスを書く	自由記述	複合条件	活用A			●	●					■	■		20.0	0.0	1.7	20.7	55.7	71.6	40.2	79.7	61.1	25.5	4.5	1.4
13	4	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	観に行く映画のタイトルを正確に読み取る	記述	通常	基礎B				●					■			45.8	7.4	25.4	56.1	85.3	91.9	7.5	36.5	6.2	0.7	0.0	0.0
14	4	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	本文から状況を正確に読み取る	選択	通常	基礎C				●					■			57.3	6.8	36.2	76.2	95.3	97.3	4.4	20.9	3.5	0.8	0.0	0.0
15	4	3	1	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物のスケジュールを正確に読み取る	選択	通常	基礎B				●					■			45.2	16.9	19.7	53.8	88.6	91.9	4.3	19.6	3.9	0.8	0.0	0.0
16	4	3	2	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物のスケジュールを正確に読み取る	選択	通常	基礎B				●					■			56.4	15.2	34.3	73.2	92.8	93.2	5.2	22.0	5.5	0.8	0.0	0.0
17	4	4		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の行動に関する情報を正確に読み取る	選択	通常	基礎B				●					■			53.2	16.6	33.4	66.6	86.8	93.2	5.0	22.0	5.2	0.5	0.0	0.0
18	4	5		ウ(オ)感想、賛否・理由を示すことができるように、内容や考え方を捉えること	本文を読んだ第三者の感想の理由となる内容を本文から捉える	選択	通常	活用A				●					■			56.2	14.2	40.9	65.4	92.8	94.6	5.4	22.3	5.5	1.2	0.0	0.0
19	5	1		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	人物の意見に対応する情報を、資料から正確に読み取る	記述	通常	基礎C				●					■			75.7	26.4	67.9	90.9	98.0	100.0	7.2	33.4	6.9	0.3	0.2	0.0
20	5	2		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見から、当該人物の経験に関する情報を正確に読み取る	記述	通常	基礎B				●					■			56.4	8.4	36.6	76.7	89.3	90.5	5.9	29.7	4.2	0.5	0.5	0.0
21	5	3	1	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、話題とは関係ない情報を正確に読み取る	記述	通常	活用A				●					■			70.9	22.3	61.4	83.3	99.0	100.0	6.9	33.4	5.8	0.5	0.0	0.0
22	5	3	2	ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、話題とは関係ない情報を正確に読み取る	選択	通常	活用A				●					■			52.0	14.2	32.7	58.1	95.5	98.6	7.9	28.7	8.5	2.8	0.5	0.0
23	5	4		ウ(ウ)あらすじ・大切な部分などを正確に読み取ること	複数の人物の意見を比較し、共通しているものを正確に読み取る	記述	通常	活用A				●					■			71.0	15.9	58.8	90.4	98.3	100.0	18.1	63.5	24.5	2.8	0.0	0.0
24	5	5		ウ(ウ) 正確に読み取り、エ(ウ)感想、賛否・理由を書くこと	人物の意見を正確に読み取り、賛否とその理由を書く	自由記述	複合条件	活用S			●	●					■	■		30.6	1.0	8.6	47.0	53.0	100.0	34.3	79.1	54.0	15.2	2.0	0.0
25	6			エ(オ)正しく伝わるようつながりのある文章を書くこと	日本の紹介文を書く	自由記述	複合条件	活用S			●							■		17.3	0.0	3.6	21.2	32.8	100.0	17.0	53.4	21.5	6.8	0.7	0.0
26																															
27																															
28																															
29																															
30																															

■対象教科、校種・学年、出題範囲、対応教科書

教科等	外国語
校種・学年	中学校第3学年
出題範囲	中学校第2学年
対応教科書	開隆堂出版

■学習状況の評定（学力段階）、段階別の平均正答率（%）





設問				平均正答率（%）					
数	%			全体	R1	R2	R3	R4	R5
25	—		全体	52.7	17.1	38.0	62.8	81.8	92.4
17	68.0	基礎／活用別	基礎B・C	57.3	21.2	43.3	67.9	86.2	90.9
8	32.0		活用S・A	42.8	8.5	26.9	51.9	72.5	95.6
		観点別	1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度						
8	32.0		2 外国語表現の能力	45.4	14.7	31.4	54.1	70.9	90.4
19	76.0		3 外国語理解の能力	52.9	16.4	37.3	63.4	83.5	92.5
7	28.0		4 言語や文化についての知識・理解	66.9	33.8	59.0	74.2	89.2	92.5
			5						
5	20.0	領域別	A 聞くこと	57.9	29.3	48.9	63.6	80.7	87.0
5	20.0		B 話すこと	59.0	23.2	47.4	68.7	85.1	90.3
13	52.0		C 読むこと	53.1	12.7	35.2	66.0	86.9	94.1
4	16.0		D 書くこと	23.2	0.3	5.3	29.4	48.5	92.9
			E						

レベル	活用	S	3	12.0
		A	5	20.0
	基礎	B	11	44.0
		C	6	24.0
形式	出題	選択	14	56.0
		記述	8	32.0
		自由記述	3	12.0
	解答	通常	19	76.0
		完答	0	0.0
		複合条件	6	24.0

学習状況の評定（学力段階）				
R1	R2	R3	R4	R5
14.3%	33.5%	29.2%	19.4%	3.6%

【強勢・イントネーション等を正しく聞き取る設問　大問１（2）　基礎Ｃ　34.9%】

対話文を聞いてその答えとなる文の中でいちばん強調して読む語を選ぶ。
F: It's October 17 today.　Is tomorrow Keiko's birthday?
M: No, it isn't.　Her　birthday　is　October　27.
ア　イ　ウ　エ　オ

■　分析

「聞くこと」の領域の設問である。設問レベルが基礎Ｃであるにもかかわらず、全体の通過率は34.9%と基礎Ｃの設問中で最も低い。段階ごとの通過率は、R5＝75.7%、R4＝65.7%、R3＝33.6%、R2＝21.6%、R1＝16.9%である。4 技能の中で聞くこと」は第一歩であり、他の領域との統合の基礎となるため、課題が大きい。

■　考察

扱われる対話文は、誕生日を尋ね、それに応答するという１問１答であり、用いられる単語は基本的なものである。日常的な会話内容で、小学校での外国語活動でも扱う内容であるにもかかわらず、このような結果である原因としては、設問が一度しか読まれないため、内容を十分に聞き取ることができなかったことが考えられる。また、「話すこと」や「聞くこと」の活動が標準的な対話を成立させる段階にとどまり、強勢やイントネーションについて十分な指導が行われていないことも考えられる。

■　授業改善

(1) 日常生活の中での通常の会話では、聞き返すなど特別な場合を除いて、1 回聞いて理解することが自然である。一方、授業のリスニングの活動は、2 回聞くことがよく行われている。それゆえ、段階的に学習を進めていき、聞く回数を減らして緊張感や集中力を持たせたり、様々なスピードにも対応させたりする活動を進めていく。

(2) 小学校で「聞くこと」、「話すこと」の体験的な外国語活動を行うようになってから、導入以前より聞くこと話すことには慣れてきており、英語の音声的な特徴（Prosody）を感じ取る力は向上している。しかし、正確な発音や強勢、イントネーション等については小学校では扱わない。中学校においては、発音はアクセントや、イントネーションがあることを常に意識させ、聞くこと、話すこと、読むことの指導の際統合的に扱う。また、1 文の中で重要な語を考えさせ強調して読む語はどれかを確認して読ませたり、同じ文でも状況によって読み方が違うコミュニケーションの在り方等に言及したりして、気持ちを込めた多様な言語活動や言語使用の状況を実現していく必要がある。

【大切な部分などを正確に読み取る設問　大問５（4）　活用Ａ　71.0%】

海外への留学生と海外からの留学生に関する 5 人の生徒の意見を、グラフなどの資料を使って正確に読み取る大問中、本設問は５人中３人の「ほぼ共通する意見」を選び、それに該当する一文を抜き出して書くことである。

■　分析

長文問題である大問５は、全６題中４題が複数の人物の意見を比較し、情報を正確に読み取る設問である。設問レベルは、基礎Ｂが１題、活用Ａが３題である。このうち本設問のレベルはＡであり、全体の通過率は71.0%、段階別ではR1＝15.5%、R2＝58.8%となり、R3 で 90%を超える。全 25 問中で活用Ａは５題あり、その中で最高の通過率となった。また、無答率は、全体が18.1%、R5 と R4 が 0.0%、R3＝2.8%、R2＝24.5%、R1＝63.5%であり、R2 と 1 の間に約 40 ポイントの差がある。通過率と無答率ともに、R1 と 2 の差が 40 ポイント程度あることが本設問の特徴である。

■　考察

R2 以上の生徒にとっては、設問レベルが活用 A であっても、グラフなどの資料を使うことで長文全体の概要が把握しやすくなるため、更に細部を読み取ることができると考えられる。一方、R1 の生徒にとっては、長文そのものの理解と資料を読み取ることの両方が負担になり、このことが無答率６割超という結果に表れている。つまり、大問や各設問に取り組むこと自体を放棄してしまっている可能性が高い。

■　授業改善

(1) 普段の授業では、教科書の 1 パートで新文型とそれを含む本文を扱うことが標準となっている。本文の内容理解を日本語の解説や True or False Question 等で行った後、新文型をポイントにしたアクティビティ等で済ませることが多い。これらに加え、音読と内容理解の読みを明確に区別し、必要に応じて「大切なことを正確に読み取る」ことを意識させたり、教科書以外の初見の教材を使って自力で読ませる機会を設けたりする必要がある。

(2) 内容理解を促す質問には、文を読めばすぐに分る事実発見の質問（Fact-finding Question）と、文章全体から読み取る全体に関連する質問（Referential Question）がある。前者に偏らず、両者を適宜組み合わせ、大切な部分を確実に読み取らせる。

(3) 内容理解の初段階で、キーワードやトピックセンテンス探し、タイトル付け等の課題をペアで行わせることで、互いの考え方や対応する方法を学ばせつつその過程での取り組みを励まし自信をもたせる。全ての生徒の学びを深めるだけでなく、R1 や 2 の生徒に対し、課題に取り組もうとする意欲を喚起する効果も期待できる。

4　総括：次期学習指導要領を見据えた一貫性のある外国語教育

○各校種・学年の考察においては、本調査の目的の一つである「特定の内容でのつまずき、学び残しの解消を重点とする」という考えの下、基礎的・基本的な知識及び技能（設問レベル C・B）を趣旨とする設問を取り上げ、改善策をまとめてある。

○今後は、次期学習指導要領を見据えつつ、知識・技能を「生きて働く」ものとし、「未知の状況にも対応できる」思考力・判断力・表現力等の育成や「学びを人生や社会に生かそうとする」学びに向かう力・人間性等の涵養を期すため、これらの【系統性】を構造的に理解する必要がある。そのうえで、全ての児童・生徒が主体となり、対話によって学びを深めるコミュニケーション活動の【連続性】を確保していくことが求められる。

表　義務教育９年間を通じた「コミュニケーション活動」の【連続性】確保の留意点※

<table>
<tr><th colspan="3">小学校</th><th colspan="3">中学校</th></tr>
<tr><th>第１学年から
第４学年</th><th>第５学年</th><th>第６学年</th><th>第１学年</th><th>第２学年</th><th>第３学年</th></tr>
<tr><td colspan="2">外国の言語や文化に初めて触れること
に配慮し</td><td>外国語を初めて学習すること
第５学年の学習
を基礎として</td><td colspan="3">小学校での活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されること
を踏まえ
第１学年の学習
第２学年の学習
を基礎として</td></tr>
<tr><td colspan="3">友達との関わりを大切に
外国語に
触れる活動　慣れ親しむ活動
日常生活や学校生活に関わる活動を行わせること</td><td colspan="3">身近な
コミュニケーション場面やコミュニケーションの働き
に配慮した　を更に広げた　を一層広げた
コミュニケーション活動を行わせること</td></tr>
<tr><td colspan="6">その際</td></tr>
<tr><td colspan="2">身近で
基本的な表現を</td><td>第４学年　第５学年
までに
慣れ親しんだ音声や
基本的な表現を繰り返して
使いながら</td><td>小学校外国語活動で慣れ親しんだ</td><td>第１学年における</td><td>第１学年及び第２学年における
音声や
基本的な表現、学習内容を繰り返して指導して
定着を図るとともに</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国の文化
の背景にあるものの見方や考え方など
に触れる活動</td><td>国際理解に関わる交流等
を含んだ
体験的なコミュニケーション活動を
行うようにすること</td><td>自分の気持ちや身の回りの出来事</td><td>事実関係を伝えたり物事について判断したりした内容</td><td>様々な考えや意見
の中から
コミュニケーションを図れるような話題を
取り上げること</td></tr>
</table>

※『すぎなみ９年カリキュラム―外国語教育編』p.58，59

○上表の下、連続的に積み上げていくコミュニケーション活動を通じ高めていくのは、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じ情報を得て自分の考えを形成し、整理、再構築する資質や能力である。このため 28 年度調査の設問の多くには、「外国語を用いた日常生活における異文化交流」や「外国語を使って考える」場面を意図的に取り入れた。こうした設問群から成る本調査において、中学校第 3 学年の R3 以上が 50％程度という結果は、換言すれば、次期学習指導要領の実現状況を一部先行して明らかにしている。

○なお、こうした現状を踏まえ、ALT や JTE 等の多様な人材と共に、外国語教育が目標とする資質・能力、その育成を通じて創る社会の姿を共有し【協働】することは、「社会に開かれた教育課程」を実現していくことに他ならない。次期学習指導要領に向けた取組は、【系統性】【連続性】【協働】を視点とする本区一貫教育の延長にある。